変えてみませ

よく知らないのに気になる六曜

結婚や葬儀などの日取り決定の際に使われている「六曜」。六曜とは、中国から伝わった占いの一種で、単純に並べられているだけで大きな意味はなく、現在は中国でも使われていません。しかし日本においては、「結婚式は大安に」「友引の葬儀は避ける」「仏滅は縁起が悪いのでお祝い事をしない」というように、六曜を基に行動を選択している人が多くいます。個人にとって、「良いこと」「悪いこと」があったとしても、「日」そのものには吉凶はないはずです。根拠のないものに縛られ、何も考えずに受け入れてしまうことが、いわれのない様々な差別を温存させる土壌となっています。

「仏滅」の日が偶然誕生日や記念日だった場合でも、縁起が悪いからといってお祝いしないの？

「大安」に結婚式をしないと不幸になるの？

「友引」に葬儀をあげることは非常識なの？

清め塩で何を清めるのか・・・

葬儀から帰った人が自宅へ入る前に用いる「清め塩」。“清め”というからには何らかの“ケガレ”があり、それは「死」を指しているのだと思います。死は悲しいものですが、生前に親しんできた家族や友人を、亡くなった途端に「ケガレたもの」と扱い「清め」ていくことは、亡くなった人をおとしめる行為であり痛ましいことです。このような死を不浄とする“ケガレ意識”は、様々な差別意識と根底でつながっています。

大切な家族や親しい友人が亡くなったとき、“ケガレ”を感じますか？

血液型で何が分かるの？

几帳面？

マイペース？

自己中心的？

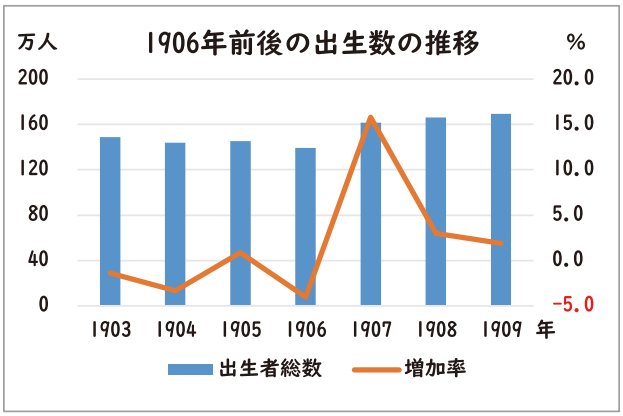
変わり者？

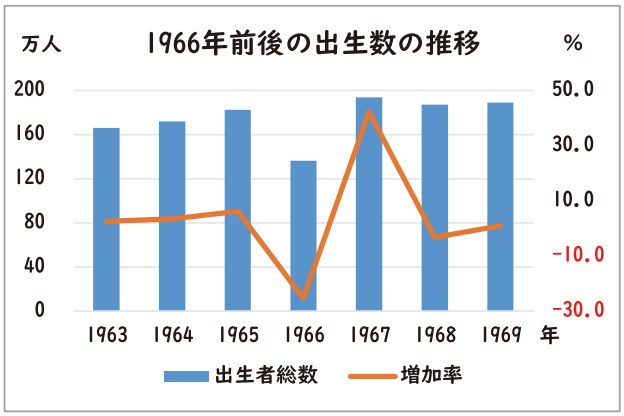
「血液型」は生まれたときには決まっていて、本人には決定しようがありません。それによって、性格診断などをすることは、決めつけや固定観念を作っていくもとになり、偏見・差別へとつながる恐れがあります。

んか・・・？

生まれるはずの命が・・・

出生数の推移を見ると、ある年が前後に比べて減少しています。1906年と1966年。いわゆる「丙午」の年です。丙午とは、中国の記号法の「十干」と「十二支」を組み合わせた年号の一つで60年ごとに巡ってきます。「丙午の女性は男性を喰らう」という迷信によって、妊娠を避けたり、出産を諦めざるをえなかったことが減少の原因です。両年を見比べてみると、前年からの減少率が1906年は4%程度であるのに対し、1966年には25%にまでなっています。文化も教育もずっと進歩したはずの1966年の方が丙午迷信の影響が拡がったことになります。情報の進展により多くの人が丙午迷信を知ることとなり、生半可な知識を持ったために拡がったのでしょう。次の丙午は2026年。情報がさらに進展していく中で、同じ悲劇を繰り返さないためにも迷信に左右されることなく、正しく知り正しく行動していく必要があります。





それが正しいことか、自分で調べたり考えたり確かめたりすることが大切って学校でも習ったよ。

「みんながしているから」「昔から言われていることだから」と何の疑問も持たずに信じ込むことが、部落差別をはじめとする様々な差別の温床になってその解決を遅らせているのよね。

古くから言い伝えられているものの中には、素晴らしい生活の知恵などが多いけど、「迷信」や「言い伝え」に縛られる必要はないんだ。

そのことで、苦しむ人、差別される人がいないように、差別につながる迷信や慣習についての意識を変えてみませんか？